



発行 青葉区民会議

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内

Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com

URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索

入手先：青葉区役所、地区センター、ケアプラザ、区民活動支援センター、図書館、区民利用施設など

青葉区民会議

検索

始めませんか みんなにやさしいまちづくり

だれもが移動しやすいまちをめざして青葉区では「バリアフリー基本構想」を策定中です。区役所や福祉施設が多く集まる市が尾駅周辺を対象エリアとして区民の意見を集めています。青葉区民会議では委員が実際に市が尾駅周辺を歩き、どのような課題がまちの中にあるのか自分たちの目で調べています。

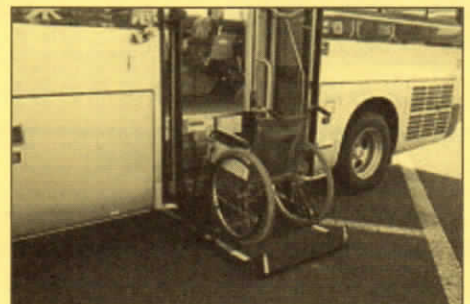
≪住み続けたいまち青葉を実現するためには、次の二つを進める必要があります≫

- ①すでにバリアー（障害物）があればそれを無くしていくこと（バリアフリーのまちづくり）
- ②最初からだれもが快適に使えるやさしいかたちに作ること（ユニバーサルデザインのまちづくり）

最近ノンステップバスが増えてきました。ドアも広くステップも低いので子どもも高齢者も楽に乗り降りができます。ベビーカーも乗せやすく、車椅子の場合はスロープが出たりします。足に怪我をしたら、ノンステップバスの良さが分かるでしょう。だれもが使いやすい工夫がされています。こんな取り組みが乗り物だけでなく、生活のさまざまな場面で進むと「みんなにやさしいまち」が作られていきます。



この段差がつらいですね



平成 26 年度青葉区民会議 公開講座

みんなにやさしいまちって どんなまち?

日時：10月19日(日) 1時～4時 (12時半開場)
場所：青葉区役所 4階401～404会議室 (無料)

> 第1部 基調講演 大森宣曉さん
(宇都宮大学大学院工学研究科地球環境デザイン学専攻 教授)
「少子高齢社会とみんなのバリアフリー」

青葉区民会議では10月19日に公開講座を開き「ユニバーサルデザインのまちづくり」についてみなさんと考えました。

*市が尾駅周辺地区のバリアフリー化を進めるため

に青葉区では10月10日～11月10日まで意見募集を行っています。ぜひあなたの意見を届けてください。

区民会議はみなさんの意見をお聞きします

青葉区民会議では3つの部会が活動を行っています。テーマによっては合同で活動を行います。(自然・環境部会、健康・福祉・教育部会、安全・安心・まちづくり部会)

I 防災・減災を考える

①災害地域と連携や情報共有を始めました。

NPO法人レスキューサポート九州(大分県中津市)の代表、木ノ下さんと轟さんとはFacebookを通じて出会う機会があり区民会議に情報提供が始まりました。

防災や減災については全国区の活動や情報が必要な分野となっています。

“減災ネットワークあおば”が今後活用できます。



② 防災・減災活動を行っている団体・組織とのテーマ検討会の開催

<避難所での対応についてミニ講演のあと意見交換>

「乳幼児連れへの備えを考える」 男女共同参画センター横浜北 浜本さん

「食品アレルギーへの備え」 NPOめだかの学校 渡辺さん



③ 減災ネットワークあおば

減災公開講座7回を通じて参加された防災に関心のある方を対象に、インターネット上に防災・減災情報を提供するポータルサイトを開設しています。<地域からのお知らせ>やく青葉区・横浜市からのお知らせ>に最新情報を提供しています。区内の地域防災拠点や自治会での取り組みなどをすることができます。みなさんといっしょに情報を増やしていきます。

④ その他 マンション防災マニュアル作成支援や防災出前講座を実施

II 災害食を広める--楽食プロジェクト

「災害時の備蓄食や非常食を日常から楽しく食べましょう」のコンセプトで楽食プロジェクトを始めました。昨年の区民まつりではじゃがりこサラダが好評でしたので

それに続く新メニューを開拓しているところです。いっしょに考えませんか？



①ペットボトルピザ

備蓄品で調合したピザの生地をペットボトルに入れダンスシェイクするとたちまち練り上がる。これを石窯で焼きトッピングすると五つ星ピザの出来上がり…このレシピを完成させました。5月6日に行った2回の試作会の後、8月16日には青葉区クールアース講座のひとつ「エコキャンプ」とコラボし小学生といっしょにピザを焼き楽しい時間を過ごしました。

②災害食づくりの体験 キッキングシート料理やジップロック料理、時短料理の切干大根サラダなどヘルスマイト(食生活等改善推進員)の協力で、災害食の工夫が広がっています。

③あなたの家族が必要な備蓄品の数量チェッカー 簡単に必要数量を確認できます。「なんとなく・からしっかり数で知る」へ備蓄品を考えるきっかけに 普及・改良をすすめます。減災ネットワークあおばのサイトからダウンロードしてみませんか？

III ユニバーサルデザインのまちづくり (1)

区民会議は今年度「みんなにやさしいまちづくり」活動を重点項目に置いています。そのためのまち歩きを部会を超えて呼びかけスタートさせました。一つの部会だけでは見えなかったことも多々あります。

●第1回 7月18日 市が尾駅周辺 <障害者イメージ訓練まち歩き>

●第2回 7月12日 南砂町駅周辺 <ユニバーサルデザイン 案内誘導システム観察>

●第3回 8月8日 市が尾駅周辺 <なりきりまちあるき・車椅子、高齢者疑似体験>

それぞれのまち歩きで新発見・気づきがありました。みんなにやさしいまちの実現へ着実に進みます。



マンションでは集会所が拠点に



南砂町駅前

区民会議はみなさんの意見を区や市へ届けます

Ⅲ ユニバーサルデザインのまちづくり (2) 福祉のまちあるき(体験レポート)

①江東区南砂町駅周辺の「やさしいまちの誘導システム」を見る

南砂町駅を出るとすぐに黄色の大きな案内板があります。誘導のための案内板やポールなどすべて黄色に塗られていますが、当初まちには目立ち過ぎて似合わないという反対があったそうです。しかし、来訪者には分かりやすいと感じました。音が出る案内板(視覚障害の方へ音の誘導灯)はメンテナンスの不備が一部で見られました。必要な人、作る人、使う人、守る人が常に関わり続けることが必要です。作ったらそれで終わりではなく、有効利用されていかなければ作った意味がないと強く思いました。



案内板 電子音付きのものも・

②市が尾駅周辺での高齢者疑似体験

駅から青葉区役所まで高齢者疑似体験キットを着用し、「なりきりまち歩き」を行いました。デザイン性を優先させた斜めで段差のある「おさかな広場」ではベンチに座るのが大変。そこから続く急で長い坂道など高齢者であれば困るであろうことを体で感じることができました。車椅子を押す体験では、坂の移動がかなり大変であることもわかりました。



おさかな広場はだれの広場?

一人一人が問題を身近に感じる現場体験を行い、課題を明確化していくことで青葉区をよりよくする提案につなげられると考えています。



高齢者疑似体験キット

Ⅳ 横浜市の緑の保全を考える 寺家ふるさと村からみえてきたこと

寺家ふるさと村の熊野神社周辺に広がる「ふるさとの森」(12.1ha)では、北部公園緑地事務所が計画的に散策路の整備と森の管理作業を行っています。今回の観察会では横浜市の担当職員の方にきていただき、現状の説明を聞くことができました。

①適切に伐採をすることで樹林の中に光が入り植物が復活してきていること②人の手が入った森や林が『里山』であり、計画的な管理があつて里山は保全されること③樹齢180年の縦の木があることが示すようにここは古くから環境にめぐまれた地域であり、手入れを続けてきた結果かなり



質の高い自然を「ふるさとの森」に回復させることができたこと、等を学びました。季節ごとに多くの区民が訪れ、里山を歩いたり田園風景を楽しんだりしています。

住宅地の隣に位置する「寺家ふるさと村」は30年の間(1987年開村)、農業を伝承してきた先人達の努力もあり、里山として維持されてきました。

これは、横浜市が他都市にはない先進的な取組として、身近な自然とのふれあいによる農業施策「ふるさと村」構想を進めてきた成果だと考えます。『寺家ふるさと村』を次世代に引き継ぐために青葉区民はどのような協力ができるのでしょうか。「寺家ふるさと村憲章」に書かれた寺家の人々の自然への思いをしっかりと受け止め、みんなにやさしいまちづくりを実現したいと思います。

寺家ふるさと村憲章

自然や農業は私たちにとって宝物だ
遠い昔からこの土地は
すべての生命をいつくしみ
重んじていくことのすばらしさが根付いている
人も同じ生き物だから
思いやりとやさしい気持ちを忘れずにいたい。

出典：環境創造局ホームページ-寺家ふるさと村

横浜市都市計画マスタープランと青葉区プラン

青葉区がまちづくり方針の見直しを行っています。

「青葉区まちづくり指針」(青葉区プラン)は平成14年に20年後の青葉区を想定して作られたものです。しかし、東日本大震災が起こりエネルギー問題が浮き彫りになりました。人口減少とともに少子高齢化が進み、今や介護・福祉の課題も山積みです。こういった時代の変化を受け横浜市では、市の都市計画マスタープランの改定を行い、次に各区のまちづくり方針の改定を進めています。青葉区民会議では区民のみなさんに「まちづくりについてあなたの考え」をアンケートし、800を超える意見が集まりました。現在意見の中身を集約中ですが、区民の声として区役所に要約版を提出する予定です。



横浜市都市計画マスタープラン青葉区プラン

ご存知ですか？ まちづくり指針ができるまで・「いつ」意見をだしますか？

横浜市 H25 3月 横浜市都市計画マスタープラン 改定済み

青葉区 H25 青葉区まちづくり指針(H14) 改定を始める

H26年6月から 区民意見募集

意見

青葉区民アンケート実施 あなたの考え

「こんな青葉区だったら わたしはずっと住む」

青葉区 H27 春 まちづくり素案の公表

区民意見書 受付

意見

青葉区 青葉区まちづくり指針原案の公表

区民意見書 受付

意見

青葉区まちづくり指針 H27 完成

H14年 青葉区まちづくり指針では

H32年ごろの青葉区を想定したまちづくり方針が書かれている。
(10年前に書かれたもの)

- 1)美しいまちなみ保全
- 2)樹林地や農地の保全
- 3)公共交通機関の育成と自家用車利用の抑制
- 4)拠点整備(駅中心)と沿道利用

H26年 改定の方向は

人口減少・少子高齢化に対応した
集約型都市構造へ

地球温暖化への対策として
低炭素型のまちづくりへ

《ひとこと》 横浜市特別自治市構想のその後

今年5月に地方自治法の改正があり政令指定都市は総合区を置くことができるようになりました。しかし横浜市をはじめ多くの指定都市では設置の動きがなさそうです。横浜市特別自治市構想では行政区を維持する考えがだされています。二重行政の解消やきめ細かい市民サービス、さらに住民自治を目指す特別自治市構想ですが、青葉区30万都市を行政区のままでは限界もあるのでは一との声も聞こえます。予算や人事権を持つ総合区長や総合区の内容についてさらに調べ、情報共有できる機会を作っていきます。

●減災ネットワークあおばについて

地域防災拠点からの情報や自治会などが実施している地域防災の取り組みなどの情報を提供しています。



青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて青葉区役所 1階広報相談係へ Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール: ao-koho@city.yokohama.jp



編集: 青葉区民会議広報委員会 事務局: 青葉区役所区政推進課広報相談係内 〒225-0024横浜市青葉区市ケ尾町31-4 Tel.978-2221